

目白学園 広報誌

学校法人 目白学園

目白大学大学院

目白大学

目白大学短期大学部

目白研心中学校・高等学校

桐

通算126号
no.28

July 2014

kiri

目白の森から風便り

特別企画

学長・学校長が語る

「これからの目白学園」

目白大学学長

佐藤郡衛

目白大学短期大学部学長

油谷純子

目白研心中学校・高等学校 学校長

松下秀房

輝く目白の星

若生愛香

さん【目白研心中学校3年】

目白研心中学校女子ラクロス部『White Eyes』の快進撃!!



特別企画

学長・学校長が語る 「これからの目白学園」





この春、目白大学には佐藤郡衛学長が、短期大学部には油谷純子学長が就任し、目白学園は新たな歴史を歩み始めました。今号では大学、短期大学部、中学校・高等学校の学長・学校長が一堂に会し、「これからの目白学園」について、それぞれの展望を語りました。

多様な年代が生み出す 「見えない効果」

佐藤 本日は油谷学長、松下学校長とお話できる機会をいただき、光栄に思っています。

油谷 こうして目白学園の学長・学校長が一堂に会してお話をするという機会は、大変貴重だと思います。

松下 せっかくの機会ですから、大学・短期大学部・高等学校・中学校を含めた「これからの目白学園」をどのように創り上げていくか、積極的に意見交換したいですね。

佐藤 今、松下先生がおっしゃったとおり、中学校から大学院までがひとつの敷地を共有することで、目白学園にはとても大切な「見えない効果」が存在していると思います。キャンパスを見てもさまざまな年齢層の学生がおり、お互いの様子を目の前で観察することができます。中学生や高校生にとって大学生の一挙一動が刺激となり、自分の将来を考え

る上で参考になっているはずですよ。

松下 中学生・高校生にとって、大学生が一番身近な大人ですからね。直接の関わりはなくても、さまざまな横顔を見ることで多様な価値観が生まれ、精神的な成長につながると思います。

油谷 短期大学部の学生も同じキャンパスに中学生や高校生がいることで、「後輩たちに笑われない振る舞いをしなければ」という自覚が生まれているようです。また、キャンパス内に普通に男子学生がいる環境は、短期大学部の女子学生にとって大きな意味を持つと思います。男女が共存する環境は一般社会に限りなく近いですし、女子のみの短期大学部に進学しながらも男子がいる環境で学べるのは、とても恵まれたことですよ。

佐藤 課外活動なども、短期大学部の女子学生が大学の男子学生と共に活発に行っていますね。

油谷 短期大学部に在籍しながら大

学の授業を履修できるのもメリットです。これは大学と併設されている短期大学ならではの、大きな強みですね。

松下 私は教育のグローバル化を掲げて中等教育に取り組んでいるのですが、「学園内のグローバル化」も大切だと考えています。「学園内のグローバル化」とは大学・短期大学・高等学校・中学校が一体化していくことで、これを「ハードウェア」「ソフトウェア」「ヒューマン」の3つの観点から推し進めていきたいですね。具体的には教員の相互協力や施設の相互利用などでしょうか。新宿キャンパスの図書館はすでに利用できる環境が整っておりますが、

油谷 教員同士の交流はぜひ実現したいですね。私はつねづね中・高の先生方の授業力には目を見張るものがあると思っています。大学の先生方にも良い刺激になりますし、学生の反応も見たいですね。

目白大学
学長

佐藤 郡衛

SATO Gunei



人間学部児童教育学科 教授。昭和27年(1952年)生まれ。東京大学大学院教育学研究科 教育学専門課程 教育社会学専攻 博士課程 単位取得退学。教育学博士。専攻は異文化間教育学。東京学芸大学理事・副学長、外務省海外交流審議会委員などを歴任。現在、文部科学省文化審議会 国語分科会 日本語教育小委員会委員も務める。

目白大学
短期大学部 学長

油谷 純子

YUTANI Sumiko



短期大学部ビジネス社会学科 教授。昭和23年(1948年)生まれ。神戸女子薬科大学(現・神戸薬科大学)薬学部薬学科卒業。専攻はビジネス実務。大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部副学長などを歴任。大阪国際大学短期大学部名誉教授。

目白研心中学校・
高等学校 学校長

松下 秀房

MATSUSHITA Hidefusa



昭和24年(1949年)生まれ。東京理科大学卒業。企業勤務後、京華中学・高等学校(東京・文京区)に勤務。校長に就任し、退職後、平成24年(2012年)目白研心中学校・高等学校学校長に就任。現在、東京理科大学数学教育研究会顧問、情報教育研究会会長も務める。

一人ひとりを大切にする教育で 自立した人間の育成を

佐藤 最近では高校生が大学のプログラムを履修できる制度も認められつつありますよね。ご存じのとおり、岩槻キャンパスの保健医療学部や看護学部ではとても興味深い授業を行っていますので、高校生にも開放できればいいと思います。解剖学や生理学など、生命をどう捉えるのか考える学問は、多感な時期に強い印象を与えるはずですよ。

松下 目白研心中学校では2014年度の3年生からスーパーイングリッシュコース(SEC)を設置し、英語教育に力を入れています。今後、SECの生徒が高等学校のSECに進み、2年生になった時点で、

第2外国語として中国語を導入することを構想中なんです。その節はぜひ、大学の中国語専門教員の方のお力をお借りしたいですね。

油谷 先ほど松下先生が施設の相互利用についてふれていらっしゃいましたが、中・高には素晴らしい茶室がありますよね。私も短期大学部は3学科ともその茶室をお借りして、茶道の特別授業を行っているんですよ。昔ならいざ知らず、今はプライ

ベートで茶道を習っている学生はほとんどいませんので、授業は正座の仕方からスタートします。

松下 私も校長室に中学1年生を招いて食事会をするのですが、急須でのお茶の淹れ方を教えるところからスタートしますね。校長と食事をするとなると生徒たちはそれなりに緊張するでしょうが、これも大切な体験です。とくにグローバル化が進め



ば進むほど、日本文化をしっかりと知っておく必要があります。最近のご家庭では正座をする習慣や急須でお茶を淹れる習慣が薄れているわけですが、こうした日本ならではのものを少しでも中・高で体験させ、表現力の向上につなげていければと。学校行事を数多く設けているのも、多感な時期に多くの経験を積んでほしいからです。

佐藤 今の松下先生のお話が端的に

物語っていますが、目白学園の素晴らしいところは、なんといっても教職員と学生の距離の近さですね。少人数教育の素晴らしさはもちろん、教員が学生一人ひとりを見て、いかに育てていくかを真摯に考えていることでしょう。

松下 大学のミッションでもある「育てて送り出す」の大切さは、中・高でもすべての教員が肝に銘じています。

佐藤 この距離の近さを活かして、自立した人間に育てていきたいですね。

「オール目白」で 学生の成長を サポート

油谷 目白学園の良いところは、素直で真面目、そして明るい学生が多いことですね。と

りわけ素直であることは、あらゆる物事や知識を吸収する必要のある若い世代にとって、とても大切。卒業して社会に出ても、この素直さを持ち続けてくれることを切に願っています。校友会では毎年1回発行する会報『校友だより』に掲載するメッセージを募っていますが、去年はなんと80名を超える卒業生からメッセージが寄せられたんですよ。

佐藤 80名とは多いですね。

キャンパスで発見 目白学園のルーツ

目白学園と 「桐」の関係は？

目白大学、目白研心中学校・高等学校の校章には桐が使用されています。この理由をみなさんにご存知でしょうか？目白学園が開学した当初、落合の台地には多くの桐が自生しており、桐ヶ丘とも呼ばれていました。また、目白学園の創立者・佐藤重遠先生の家紋も桐であったことから、校章として桐を用いるようになったのです。



学園のランドマークだった 円型校舎

新宿キャンパスには、かつて「エンケイ」と呼ばれ親しまれた円型校舎がありました。惜しまれつつも1996年に解体されましたが、10号館の円型の張り出しをはじめとして、キャンパス内にはその面影を残す風景がいくつか見られます。



油谷 それだけ自分が卒業した学園に思い入れがある、自分が成長できた実感があるということなんです。最近の学生は受け取る情報量が豊富で、現実社会の厳しさを学生時代から知っています。とくに女性の場合、どうしても自分のキャリアに天井をつくってしまいがちです。でも私たちは一步一步チャレンジすることの大切さを訴えてきたいのです。そのための仕組みを学校側も用意すべきだと思い、短大では「教養マラソン」というプログラムを実地しているんです。

松下 「教養マラソン」とは面白そうですが、どのようなものですか？

油谷 ジャンルを問わず本を5冊読み、美術館・博物館など3つ以上の施設を訪れてレポートを提出してもらい、優秀者を表彰するという試みです。学生の成長をサポートするこうした仕組みづくりを私たちはさらに推進しなくてはなりません。

佐藤 大学でも留学生懇談会やフレッシュマンセミナーなどを学生に企画・運営させ、教職員が必要に応じて指導しています。大学とは挑戦する場です。自分の殻を打ち破り、学生には何事にも挑戦してもらいたい。同時に大学も新しい試みに挑戦し続けなくてはなりません。学生・教職員・保護者など、あらゆるステークホルダーが一致協力し、学生を育てて送り出したいですね。

油谷 まったく同感です。すべての

ステークホルダーが幸せになることが私たちの目標。そのためには教職員が一方向的に教えるのではなく、学生と共に教職員も育っていく必要があります。互いに自立かつ自律した関係で、新しいかたちの学園を創っていくこと。自信と自己達成感を持って卒業し、「この学園を卒業してよかった」と思えることが重要ではないでしょうか。常に学生に納得のいく進路を共に探したいと考えていますし、本人が納得できるようサポートを惜しまないつもりです。

松下 中・高では21世紀のグローバル社会を豊かに生きる人材になるための教育を、どんどん進めていきたいと思います。これからの社会では、異言語・異文化の人材と共に働くことが求められます。そのためにも早い時期から自己管理能力、グループワーク能力やグローバルなモラルをしっかり身につけた人材を育成していきたいですね。今こそ「オール目白」が結集するときではないでしょうか。大学・短期大学・高等学校・中学校が一体となり、交流を活発化していくべきです。

油谷 そのとおりですね。目白学園の学生・生徒は高いポテンシャルを持っていますから、これを育てていくのは私たちの務めですね。

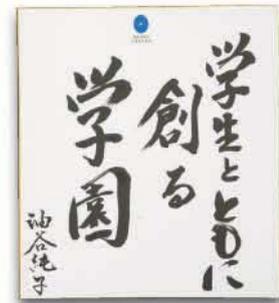
佐藤 そして私たちの教育の目標と内容と成果を、今後も保護者や卒業生の皆さまに広く発信していきたいですね。

「これからの目白学園」のために、大切にしたい一言



佐藤郡衛学長

「学生も大学も常に“挑戦”が必要です」



油谷純子学長

「学生だけでなく教員も成長し、協同する学園を目指します」



松下秀房学校長

「求められるのは大・短・中高が一体となった教育です」

数字で知る 目白学園のいま

7,255名

在校生・在学生・大学院生数

目白学園に在籍する生徒・学生・院生の数は7,255名(2014年5月1日現在)です。また、目白学園全体の卒業生数は、のべ77,000名以上。社会で活躍する学園の卒業生は、今後も増えていくのです。



11,372名

オープンキャンパス来場者数

2013年度のオープンキャンパスの来場者は11,372名でした。キャンパスツアー、模擬授業などのプログラムが開催される中に家族でオープンキャンパスに参加する受験生も。世代を問わずたくさんの人が目白学園に足を運んでいます。



Campus News

キャンパス・ニュース

目白学園の
ニュースをお届け!

2014.05.28-06.03

短期大学部が新宿高島屋の第7回『大学は美味しい!!』フェアに参加

短大

5 月28日(水)から6月3日(火)に新宿高島屋で開催された第7回『大学は美味しい!!』フェアに短期大学部が参加し、「メジソーどら焼き」と「米粉しっとりパウンドケーキ」を販売した。2度目の参加となる今回のキーワードは「米粉」。どら焼きは老舗和菓子屋「なごみの米屋」との共同開発で、米粉を使った生地を「ふんわりしっとり」とさせるため試行錯誤を重ねた。また、パウンドケーキはしっとりとした食感と口どけの良さが特長。日本テレビ系列「世界一受けたい授業」でおなじみの本学の中川二郎教授監修で製作し、色味にもこだわった一品だ。店頭販売には、製菓学科の学生や教職員が参加。初日から多くの方が来場し、小麦粉とはまた違う独自の食感が好評を博した。製菓学科では今回のフェア以外にも、「スイーツアイデアコンテスト」など学外に向けた活動を積極的に実施している。



第7回『大学は美味しい!!』フェア参加の告知チラシ。より多くの方にご興味いただけるよう、学内外でのPR活動にも力を入れた。

スイーツアイデアコンテスト開催

製菓学科では、7月25日(金)～9月5日(金)を応募期間として、「スイーツアイデアコンテスト」を開催。中高生を対象に、秋をイメージしたスイーツのアイデアを募集している。優勝者が考案したお菓子は、製品化して本学内で販売予定。中高生にお菓子を作る楽しみを知ってもらうための取り組みである。

2014.03.24/04.02

平成25年度学位授与式、平成26年度入学式を挙行

大学・短大・大学院



荘厳な雰囲気にも包まれた学位授与式会場

目 白大学・目白大学短期大学部では、平成25年度の学位授与式を3月24日(月)に、平成26年度入学式を4月2日(水)に、それぞれ挙行了。学位授与式においては、1,590名の卒業生が、これから社会に羽ばたいていく希望と期待に満ちた力強い表情を見せていた。

また、式では本学から加藤隆之氏に対し名誉博士号の称号が授与された。加藤氏は大正9年生まれの93歳で、日本公認会計士協会本部東京会の会長など会計実務の要職を歴任。なんと88歳(当時)にして本学大学院経営学研究科経営学専攻博士後期課程へ進学し、4年半にわたって研究に取り組んだ。この名誉博士号授与は、加藤氏のこれまでの会計界発展への寄与を称えたものである。入学式においては、佐藤郡衛学長から本学の建学の精神「主師親」の意義の解説や、新入生への激励があった。1,795名の新入生は、この言葉を胸にこれから始まる学生生活を充実させていくことだろう。



舞台上で挨拶をする加藤氏

2014.04.01

SUPER ENGLISH COURSEがスタート

中学校・高校



SUPER ENGLISH COURSEの授業の様子

目 白研心中学校・高等学校では、4月から「SUPER ENGLISH COURSE」がスタートした。このコースは中3から高3までの4年間でグローバル人材を育成することを目標としており、具体的には英語力(TOEFL ibt80)、論理的思考力、国際教養、プレゼンテーション・ファシリテーション力を身につけていく。オリエンテーションでは、グローバル人材に必要な異文化理解力・論理的思考力・プレゼンテーション力・グループワーク能力について、タブレット端末を駆使してグループで共有した。同コースでは、このような対話型・グループワーク型の授業を多く取り入れていく。

2014.04.01

目白研心中学校・高等学校の イメージキャラクターが誕生！

中学校・高校

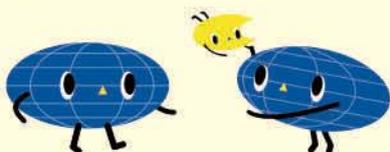


MEJIRO KENSHIN
JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

感謝」という校訓を重視していく姿勢を「目白学園のシンボルマーク」で表したものである。人間教育を重視する「不易」の部分と、現代の国際社会に適応していくという「流行」の部分を含み備えた人材を育成する、本校の取り組みと意欲を象徴している。



目白学園のシンボルマーク。
モチーフとしてキャラクターに活用されている



今年度から、中高にもキャラクターが誕生した。このキャラクターは2つの顔を持つ。ひとつは地球、ひとつは目白学園のシンボルマーク。グローバル人材の育成を目指す本校の姿勢を「地球」で、また「誠実・敬愛・

2014.04.01

「LINE」公式アカウントを開設

大学・短大・大学院



広報活動の一環として、目白大学・目白大学短期大学部でスマートフォン向けコミュニケーションアプリ「LINE」の運用を開始した。大学・短大では、高校生など若年層の多くに定着しているLINEを通して最新の入試情報を配信することで出願・入学を促進。オープンキャンパスをはじめとしたイベントへの参加も積極的に呼びかける。また、キャンパスの様子や学科の学びなど、本学の旬な情報も発信していく。本学大学院からも、進学を検討している方に相談会の開催情報などを配信する。もちろん、受験生以外も登録可能。興味のある方はぜひ「友だち追加」を！



目白大学



目白大学
短期大学部



目白大学
大学院

「もっと知りたい！
メジロ情報」は
Mejiro Topicへ

2014.06.08

第1回オープンキャンパスを実施

大学・短大

6月8日(日)、新宿・岩槻両キャンパスで第1回オープンキャンパスを開催し、たくさんの受験生・保護者の方に来場いただいた。新宿キャンパスでは、大学・短大それぞれの「入試説明会」、「AO入試まるわかりガイダンス」の参加者が多く、8月から始まるAO入試に備える受験生の姿が目立った。岩槻キャンパスでは、保健医療学部3学科全ての学びを体験できる「特別体験プログラム」を行った。プログラムは牛島副学長による講演に始まり、「自分の足に合った靴の中敷の制作」や「身体に障害をもった方が使いやすいスプーンの制作」、「飲み込みの音や発音の聞き分け」を実施。また、「岩槻キャンパスの大学生活」をテーマとした在学生と卒業生による講演では会場から拍手が起こるなど、大いに盛り上がった。

もっと知りたい！
メジロ情報

Mejiro Topic



目白大学 副学長
保健医療学部理学療法学科
教授 牛島康榮
USHIJIMA Yasuhide

岩槻キャンパスの 「特別体験プログラム」とは？

Q 「特別体験プログラム」の目的って？

A 岩槻キャンパスの学生は、国家試験に合格し有資格者になるために入学してきます。したがって、入学前に各学科の学びをしっかりとリサーチすることが必要です。これを怠ると、実際の学生生活が予想していたものと乖離して、学習意欲の低下につながります。多くの高校生は学科について漠然とした印象しかつかんでいませんし、情報もあまりないのが現状です。体験プログラムは医療系の学びを早い段階で体験し、大学生活を理解してもらう目的で企画していますので、進路選択の一助となっているのではないかと考えています。今後も継続していくつもりです。

牛島副学長による、「医療職とは」および「医療系大学で学ぶこと」についての講演



Q 今後はどんな取り組みを行っていく予定？

A 受験生は将来を見据えて(職業を選択して)大学を選びます。大学側に必要なのは、各学科の教育内容や実習内容の情報提供と考えています。さらに就職後の細かい情報も必要となり、保護者はこの点に大変関心があります。したがって岩槻キャンパスの学びや取り組みを知ってもらうには、入試グループの職員だけでなく教員や卒業生などの協力が必須です。こうしたさまざまな相談・要望に応えるため、現在は「大学コンシェルジュ」として入試グループに教員が対応する情報提供の窓口を設けてはと構想中です。教員の配置に関する面など課題はありますが、今後の展望として、より具体的に検討していきたい部分です。



左上からそれぞれ、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科の体験プログラム。理学療法学科では靴の中敷を作るなど、親しみやすいテーマで実施されました

目白研心女子ラクロス部“White Eyes”の快進撃!!



中学1年生から高校3年生までの6学年53名が、高い目標を掲げて日々練習に励んでいます。
春の関東大会で創部以来初となる決勝トーナメントにチームを導いたキャプテンで、
生徒会長でもある若生愛香さんに大躍進の秘話を聞きました。



若生愛香 さん
WAKOH Aika

目白研心高等学校3年
ラクロス部“White Eyes”
キャプテン



スピード感と戦術の豊富さがラクロスの魅力

ラクロスをひとことで紹介するとしたら「いろいろな球技の長所を全部集めたようなスポーツ」。ですから戦術はとて多岐にわたり、特に女子の場合は、頭脳プレーや試合中の細やかな修正が重要です。サッカーやバスケットボールと違いゴールの裏もゲームエリアなので、そこをうまく使ったセットプレーなど、ラクロスならではの見所もたくさんあります。一方で、シュートの最速はなんと時速130km！クロスという道具を使い、パスをたくさんつないでゴールを目指すスピード感がたまりません。可憐さとパワフルさを兼ね備えたスポーツだと思います。

また、女子ラクロスは中学校・高校の部員が同じフィールドで戦える数少ない競技です。普段から6学年が一緒に練習に取り組むので、チームのキャプテンとして、部員のコミュニケーションにも気を配るようにしています。私が中学1年生のとき、高校生の先輩がとても大人に見え、遠い存在に感じました。ですから、異なる学年の相手とストレッチやパス

交換をするなど、今のチームではできるだけ学年の枠を超えて交流できるよう心がけています。こうしたことで生まれる一体感により、試合の重要な場面で一瞬の呼吸が合ったりするんです。

本音をぶつけ合いながら成長した

私が入部した頃、“White Eyes”はなかなか試合で勝つことのできない弱いチームでした。その後、先輩方が土台を築いてくださり、「勝負」ができるチームに成長しました。さらに飛躍するため、私たちはこの1年、走って走って走り抜きました。インターバル走、階段ダッシュ、坂道ダッシュ…どれも本当にきつくて、悩むことも多かったです。部員同士で何度も本音をぶつけ合い、時には涙を流しながら自分たちに必要なメニューを作り上げていきました。一人ひとりの走力が向上したことで試合でも自然と結果が出るようになり、強豪校にチャレンジできる大きな自信にもなりました。

支えてくれているすべての人に感謝を

“White Eyes”がここまで強くなったのは、部の仲間や先輩、顧問の先生の指導や他の運動部の協力があったからこそ。顧問の先生は理科の先生らしく理論的に戦術を分析し、私たちにサポートしてくれました。他の運動部とは、試合前になるとグラウンドを譲り合います。保護者の皆さんも応援に駆けつけてくれて、学園全体のバックアップを感じています。

どんな競技もそうだと思いますが、ラクロスも「上手くなりたい」「強くなりたい」という気持ちが一番大切です。試合でどんなに点差がついても、最後まで決して諦めない。できることはすべてやり尽くした上で、気持ちをプレーにぶつける。キャプテンだけでなく、勉強や生徒会長の役割にも多忙な日々ですが、この強い気持ちとラクロスができる感謝があるから、どんなことだって全力で取り組んでいけるんです。